

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価評価書

札幌市立南白石小学校

1 重点目標

<p>◎自ら考え、判断し、表現する力の育成 ◎命を大切に、思いやりのある子の育成 ◎自らの健康を考え、進んで運動に親しむ子の育成</p>
--

2 経営方針

<p>「自分が大切にされている」と実感でき、学び甲斐と働き甲斐のある学校」</p> <p>・いじめへの組織的な対応 ・一人一人に応じた支援</p> <p style="text-align: center;">↓ ↑</p> <p>(自分から) うごきだす つぎをかんがえ あとしまつ (みんなと)</p>
--

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	具現化へ向けた取組	自己評価の適切さ	取組の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	前後学年の系統性を踏まえて、課題探求的な学習展開を実践している。 ⇒授業と家庭での学習につなげているか。	B	1時間の授業で学習したことを全学年、振り返るようにし、学習内容の定着を図るように努めた。家庭での学習につながる授業展開について今後も研修に努める。	A	B
	個別最適化を志向する授業を実践している。 ⇒ICTを活用した授業を積極的に実践しているか。	B	ICTの活用が日常化できるよう校内での活用に関わる情報の共有や確認に努めた結果、児童のChromebookの活用時間が増加した。ICT機器の活用が効果的な場面を精査できるよう今後も子どもの学びの過程を吟味していくよう努める。	A	B
	できるわかる楽しい協働的な学びを志向する授業実践しているか ⇒子どもの問題意識の流れを大切にすることで、考え続けることを無理なく進めていけるように努めているか。	B	教師一人一人の授業がより良くなっていくために、お互いに授業を見合う機会をたくさん作ったり、授業に関わる情報の共有がしやすい場をつくるようにした。子どもが学んでいく過程を大切に今後とも研修に努めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・子どもには、学ぶことの大切さ、目標をもって取り組む姿勢を身に付けていけるようにしてほしい。 ・それぞれの取組でどんな学力が付いたのか、評価すべき観点として、今後取り組んでほしい。			
豊 か な 心 の 育 成	「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」で相手の考えを想像しながら話す・聞くことの大切さを日常的に指導している。	A	友だちを大切にする第一歩として、聞き方「あいうえお」を各学級で指導した。聞く構えは徐々に向上している。次年度は耳を傾けることを友だちを大切にする重要な要素として重点的に指導に取り組んでいく。	A	A
	「4つのあ」特に、「あとしまつ」について「自らを振り返る機会」として重視している。	A	単に「後片付け」ではなく、「振り返り」としてのあとしまつの意識を日常的に取組むことで高めることができた。次の活動につながる意識を高めるようなふりかえりを進めていくことで、自分を見つめる機会として意識の向上を図りたい。	A	A
	特別な教科道徳の指導を充実させている。	B	「特別の教科 道徳」の授業を参観日で実施したことによって道徳の授業について理解をいただく機会をつくった。日常的な道徳教育については、育てるべき規範意識やその指導方法を校内で共有することにより、学校全体としての道徳教育を充実させていきたい。	B	B
学校関係者評価委員による意見		・「4つのあ」の取組が素晴らしい。 ・道徳教育に当たって、児童の家族も含めて指導しようとするのが素晴らしい。			

健やかな体の育成	体力づくりのために整備された環境を積極的に活用したり、利用を促したりしている。	B	校内や屋外にある様々な道具を整備し、環境の活用を促した。また、児童会主催の大縄大会やボプラ活動での遊びなど、全校一斉の取組運動週間を実施した。また、跳び箱やマットなど特定の運動での全校一斉取組等により、より集中して運動に取り組むことができるよう工夫した。	B	B
	中休み(昼休み)は積極的に身体を動かすよう意図的計画的に指導している。	A	休み時間でもグラウンドでは多くの児童が遊ぶし、天候の良い日は体育館で元気に遊ぶ姿をどの学年の児童も見られるようになった。休み時間の位置づけを吟味することや、各学級での取組について検討を加えることで、体力向上への意識を高めるようアプローチしていく。	A	B
	自らの体力の向上の意欲を生むきっかけとしても、体育の授業を行っている。	B	振り返りの中で、できたことやまだのことを考えさせることで、次の時間の学習の課題を自分なりに把握できるようにした。また、ラグビーやサッカーなど専門家による出前授業や実施やスキー授業における専門家や地域の方々の指導などを推進していくようにする。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業だけでなく、休み時間にも元気に遊び、健康な体を作ってほしい。 ・全校が一斉に取り組むことで、準備時間の短縮によって、実稼働時間が増え、運動に慣れ親しめる取組に関心した。 			
いじめへの対策	子どもの状態や状況を観察し、それに対応に生かすためのスキルを身に付けている。そしてそれを磨いている。	B	「見つける目」をもつために、具体的な事例から方法について情報を共有するように努めた。また、学びのサポーターや相談支援パートナー、SC、SSWなど日常の様子を見守る方からの情報をいただくことで、更に担任一人一人の意識とスキルが高まるよう目指した。	A	B
	正確に認知するために状態や状況を確実に言語化し、普段から日常的な記録や情報の共有に努めている。	A	子どもたちの状況について様々な目を通して見たことや感じたことをいつでも見られるよう環境を整えたことで情報の共有を図ることができた。寄せられた情報を的確に活用できるよう今後も努めていく。	A	A
	組織的な対応を理解し、適時適切なタイミングで対応を決定し、実行の上、検証している。	B	月に一回のいじめ防止対策委員会で情報共有をもとにした組織的対応を定期的に行った。また、日常の情報共有では担任外党の情報も迅速に担任と共有できるよう努めた。効果的な対応のためにより研修を深めていきたい。	B	B
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・見逃さないことはたいへん難しいことであるが、目を多くすることで気が付くことも増え、情報の共有は効果的である。 ・何よりも研修によって、技量を高めることは基本的な取組であるが、だからこそ、難しく、よく取り組んでいると言える。 			
信頼される学校づくり	学校の情報が受け取りの立場に立って適時的確に発信されている。	A	発信する媒体(お便り、HP、すぐるからの発信)や、情報を受け取る方々に合わせて、より分かりやすく伝わるよう、表現や内容について吟味した。また、情報の性質によって、HPだけではなくすぐるからの情報発信により迅速かつ確実に伝わるよう努めた。連絡ソールのルールや使い方の説明等、保護者へより丁寧な対応が必要である。	A	A
	学校が集めたり、寄せられた情報に向き合い、適時的確に対応している。	B	学校に寄せられた情報が、滞ることなく校内で共有されるよう努めた。そして、事案の性質により検討する場をもち、的確に対応できるように努めた。校内での情報共有のために導入したトランシーバーにより、即時性が高まる情報の共有が充実した。	A	B
	より良い教育活動の展開のために、教職員自身がライフワークバランスを意識したうえで、自らのスキルアップのために、重要度に応じて取り組むタスクの順序をきめている。	B	教育活動にかかわる業務について、ICTの活用等により効率化を図った。業務の重要度を精査し、業務の順番や手順等を共有し、互いのスキル向上を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・地域とより連携して子どもたちを見守ったり、地域の活動にも目を向けていることに感心する。 			
効率的な業務推進	有効な教育活動を推進するために、校務作業時間の確保とさらに指導の充実を図ることができた。	A	諸会議の設定日や運営方法に検討を加えることにより、教育活動を効果的・効率的に実施できるよう努めた。議論する内容の精査や議論の順序について主催者が検討を加えることにより、今まで以上に効率的効果的な教育活動を展開していきたい。	A	A
	ICTの機器や校務PCを活用による校務の効率化を図ることができた。	B	データの共有や活用について、ICTを積極的に活用(グループウェアやchromebookの活用等)することでより効率的な業務運営をめざした。教育活動が一層充実するよう検討する過程や検討する内容をより焦点化していきたい。	A	B
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の中では業務的に大変だと理解している。両者のバランスを取りながら、少しでも効果が上がっていくことを期待している。 			